

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 8 月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	4073100309		
法人名	株式会社 福岡福祉会		
事業所名	グループホーム アンクラージュ大橋南		
所在地	福岡県春日市桜ヶ丘8-29 〒 816-0872 (電話) 092-593-2252		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年8月26日	評価確定日	平成21年9月24日

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

幹線道路から1本入った、閑静な住宅街の中、併設施設と同じビルの中にある。建物の外観はビルであるが、ホーム内は、自然光を取り入れ、柔らかな光に包まれ、暖かく心むく快適な空間となっている。利用者同志の屈託のないおしゃべりやソファでくつろぐ姿から、日々自然体の暮らしが営まれている様子が伺える。開設から6年目を迎え、利用者の重度化が進み、家族の希望から、今回始めてターミナルへの支援を行いつつも利用者一人ひとりのペースに合わせ利用者の視線にたったケアが行われている。ホーム全体での遠出や地域とのかかわりが益々難しくなっているなか、出来る範囲で外出や地域交流へ継続的に取り組んでいる。次回訪問時には、ますます成長した職員の姿と地域との連携への取り組みがどのようになっているかが期待される事業所である。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果を受け、カンファレンス時に報告を行うなどの取組みがある。利用者の状態変化に伴い、できる範囲で外出や地域交流への取組みの継続が見られる。また、運営推進会議での外部評価について報告が行われるなど、公表に向けて積極的に取り組んでいる。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の外部評価受審にあたり、今の状況について話し合うなどの取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 自治会長、民生委員、行政担当者、家族の方などを招いての2ヶ月毎の開催がある。外部評価結果や現在の状況等についての報告の他に、民生委員や家族から要望が出たり、家族と行政担当者との質疑応答の場となるなど、様々な意見交換が行われている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族面会時にケア記録を提示しての説明やその都度の電話連絡、家族会時、運営推進会議時などを通じて声かけ・報告を行い、家族の意見や要望、思いなどの把握に努めている。出された意見等は、カンファレンスにて協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常的な散歩や買物時の挨拶、公民館行事への見学、地域保育園との交流、地域の清掃への参加など、日常のかかわりを通じた交流への取組みがある。

【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 12 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 6 月 1 日						
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人				
職員数	9人	常勤	8人	非常勤	1人	常勤換算	8.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	6階建ての～ 2階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	75,000～92,500円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(20万～50万円)	有の場合	有	
	無	償却の有無	無	
食材料費	朝食	250円	昼食	350円
	夕食	350円	おやつ	50円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(7月12日現在)

登録人数	9名	男性	1名	女性	8名
要介護1	1名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	2名		
要介護5	2名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 88.2歳	最低	83歳	最高	103歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 たけとみクリニック / 医療法人 前田歯科クリニック
---------	---------------------------------

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	2年前に、再度、理念について協議をおこな い、地域密着型を意識した理念とケアへの取組 みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	入職時のオリエンテーション時に理念につい ての説明がある。また、毎朝、利用者と一緒に なって唱和を行うなど、理念の共有化への取組 みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	日常的な散歩や買物時の挨拶、公民館行事へ の見学、地域保育園との交流、地域の清掃への 参加など、日常のかかわりを通じた交流への取 組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果については、運営推進会議時 やカンファレンス時に報告を行うなどの取組 みがある。利用者の状態変化に伴い、できる範 囲で外出や地域交流への取組みの継続が見られ る。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービス の実際、評価への取り組み状況等につ いて報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	関係者を招いての2ヶ月毎の開催がある。外 部評価結果や現在の状況等について報告の他 に、民生委員や家族から要望が出たり、家族と 行政担当者との質疑応答の場となるなど、さま ざまな意見交換が行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への行政担当者の参加が見られ る。介護保険に関する質問のみでなく、業務内 容についての相談をおこないアドバイスをうけ るなど、質の向上に向けた取組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	家族に対しては、家族会時や運営推進会議時 等を利用して説明をおこなっている。職員に対 しては、以前は、施設全体で勉強会を行うなど の取組みが見られたが、今年になってからは、 行われていない。		行政職員や地域包括支援センター職員によ る出前講座を利用するなど、制度等について 職員の理解を図るための取組みを期待しま す。また、運営推進会議等を利用して、定期 的・繰り返しの制度についての説明と周知へ の取組みを期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につ いて、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族面会時にケア記録を提示しての説明やそ の都度の電話連絡、家族会時、運営推進会議時 などを通じて報告が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族面会時やその都度の電話連絡、家族会 時、運営推進会議時等を通じて、意見や要望、 思いなどの把握に努めている。出された意見等 は、カンファレンスにて協議するなどの取組み がある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	新しく職員が入職した際は、1～2週間の引 継ぎ期間を設け、先ずは利用者に寄り添い、利 用者を知ることから始めるなど、馴染みの関係 づくりへの取組みがある。		職員の離職が多いように思われます。利用 者・家族に対する馴染みの関係性への継続と 利用者に対するダメージを考慮して、職員の 定着化を図れるような取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	法人全体での募集であるが、職員の採用に関してヘルパー2級の資格の制限は設けているも、その他の制限はない。本人の、希望と適性を鑑みての配置である。職員の経験や能力を活かして係りをきめるなどの取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	地域包括支援センター職員による出前講座を利用するなど、職員の人権教育や啓発への取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修案内を提示して希望を募ったり、内容によっては職員を指名するなど、研修参加への取り組みがある。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加盟しており、協議会の同じブロックの事業所との交流がある。また、市内にあるグループホーム間で、お互いの運営推進会議へ参加し合うなど、交流への取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用前の本人・家族との面談、状況に応じて入院先や入所先の職員から情報を得て、利用者の状態を把握し、利用者に関わりを持ってもらい職員と一緒に行動するなど、少しずつ馴染むための取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のかかわりを通じて、人としての在り方や姿勢など、精神面での学びを得ている。職員と利用者間で、ねぎらいの言葉やお礼の言葉が聞こえるなど、お互いを尊重した対応が見受けられた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族会や面会時、その都度の電話連絡等を通じて家族の意見や要望を把握し、日常のかかわりを通じて利用者本人の思いの把握に努めている。把握した内容は、心身の情報記録シートと個人記録に記すなど、情報共有への取り組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の思いや要望等を基に、計画作成担当者が介護計画書を作成し、カンファレンスにて他の職員と協議し介護計画書へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	担当職員による月に1度のケアチェック表の 評価を基に、カンファレンスにて、全職員によ る情報交換や共有が図られている。3ヵ月毎及 び状態変化時等は、介護計画書の再作成や見直 しが行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	医療連携を活かした、ターミナルへの取組み や協力病院の往診、家族対応が無理な場合の病 院受診など、その時々本人・家族の状況に応 じた対応がある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に今までのかかりつけ医の継続とホー ム協力医療機関の利用について相談を行い、本 人・家族の希望に沿って支援している。ホーム 協力医による往診と受診、必要に応じて専門医 療機関と連携を行うなど、適切な支援がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	利用者の状況に応じて、主治医・家族・職員 交えての協議を行い、家族の意向の確認が行わ れている。家族の意向の確認の後、看取りにつ いての同意書を得ている。		家族の希望から、初めてターミナルへの支 援が行われています。今後、同じようなケ ースが出てくることも予想されますので、ホー ム及び法人全体として重度化についての指針 の作成に着手され、利用者・家族の意向の把 握と支援への取組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として意識して、利用者の視線に あわせて、馴れ合いとならないよう丁寧な言葉 かけが実践されていた。介護記録等は、事務所 にて保管・管理されるなど、個人情報に配慮し た対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	食事を始めるタイミングや食事にかかる時 間、日中の過ごし方など、利用者一人ひとりの ペースや状況に配慮した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは併設施設のメニューを参考に、 ホームでの調理である。キッチンで調理する際 の音や匂いが五感へ働きかけ、食事時間が楽し みとなるような工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本は週に3回の入浴であるが、お風呂の準 備は毎日行い、利用者の状況や希望に応じて柔 軟に対応している。タイミングを見計らっての 声かけ・誘導によりスムーズな入浴が行われて いた。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	ランチョンマットたたみ、洗濯物干しやた たみ、食器洗い、レクリエーションとして紙粘土 細工、編み物、室内での様々な運動を行うな ど、利用者のしたい事をくみ取っての取組みが ある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な散歩、買物、公民館行事への見学な ど、利用者の状態の変化に応じて、出来る範囲 での外出への取組みがある。ベランダでのお茶 や施設最上階の展望フロアへ赴くなど、長時 間の外出が難しい利用者へ配慮した支援も行わ れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	ホーム出入り口は開錠されている。職員は利 用者の状態を良く観察しており、さりげなく声 をかけたたり、一緒に歩くなどの対応がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回、系列法人施設と合同の避難訓練が行 われている。緊急連絡が事務所に掲示してあ り、マニュアルの準備とあわせて、常に職員は意識 して業務にあたっている。非常災害時の、地域 との連携や協力体制を得るための働きかけはこ れからである。		法人全体として、非常災害時等における地 域との連携や協力体制を得るための働きかけ など、地域との体制作りに向けた取組みを期 待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	メニューは併設施設で提供しているメニュー を参考にしており、食事・水分の摂取量の チェックを通じて、利用者の栄養バランスの把 握がある。利用者の状態により、ゼリー食や栄 養補助食品、トロミをつけるなどの支援が行わ れている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は、自然光を取り入れ、柔らかな光 に包まれ、快適な空間となっていた。利用者同 志の屈託のないおしゃべりやソファでくつろ ぐ姿から、居心地の良さが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、テレビや整理筆筒、写真等、使い 慣れた物や馴染みの物が持ち込まれている。ま た、希望により居室をフローリングから畳に変 更できるなど、利用者のいままでの生活習慣に 応じた居室作りへの配慮がある。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号